



[きゅうさっぽろのうがっこうえんぶじょう(とけいだい)]

旧札幌農学校演武場(時計台)

完成後に時計塔を付設

この建物は、札幌農学校の演武場として、初代教頭クラークの帰国後、第2代教頭ホイラーの構想に基づき、安達喜幸を中心とする開拓使工業局えいぜんか 営繕課えいせんかの設計・監督により、明治11(1878)年10月に完成した。安達は開拓使を代表する建築家で、その卓越した技術は、お雇い外国人からも高く評価されていたという。

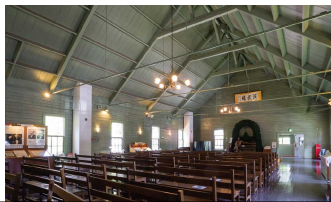
明治14(1881)年、時計塔を付設し、同21(1888)年1月、札幌の標準時計とすることが告示された。

建築の意匠は、簡素で装飾の少ない米国の中西部建築様式の影響をうけた実用建築で、わが国で

は類例の少ない開拓使時代の建築として貴重なものである。

バルーン・フレーム構造

2階には天井がなく、小屋組(屋根を受けるための骨組み)が露出している。屋根の勾配方向に部材(合掌組がっしょうぐみ)を約3.5m間隔にかけ、その上部をカラーストーム(つなぎ材)で結ぶ、バルーン・フレーム構造としている。

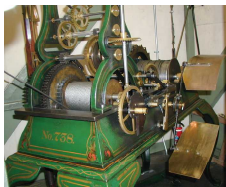


軒けたはタイバー(丸鉄棒)で結び、さらに上方のつなぎ材の両端から鉄棒を下げてタイバーを釣っている。これはバルーン・フレーム構造(間柱構造)にみられる形式である。

振り子時計

時計の機械は、鳩時計と同様の振り子時計で、専門的には時計打重錘振り子式四面時計と呼ばれ、動力にはおもりを利用している。この仕組みの時計としては、日本で原形のまま正確に作動している最も古い塔時計である。

おもりは、豊平川の玉石を木製の箱に入れたもので、重量は動力用が約50kg、鐘用が約150kgのものを使用している。おもりの巻き上げは人力で、3日に1回行っている。なお、時計は米国ハワード社製である。



演武場から公会堂へ

マサチューセッツ農科大学を手本にした札幌農学校は、武芸科(兵学科)を設置し、その兵士訓練を行うため、この演武場をつくった。

明治36(1903)年7月、農学校は現在の北海道大学の位置に移転し、演武場と旧校地は札幌区に貸与され公会堂として使用された。

明治39(1906)年、それらは札幌区の所有になり、建物は現在地に移された。旧位置は、現在の北2条通りの路上と、北2条西2目じりにまたがる一帯であった。

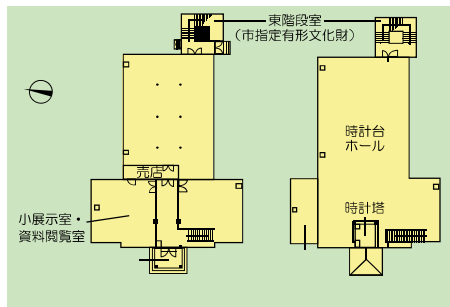
その後、郵便局、教育会および図書館等に利用されたが、昭和36(1961)年6月札幌市指定の有形文化財第1号に、つづいて昭和45(1970)年6月国指定の重要文化財(時計機械は附指定)となった。

文学や音楽などにも登場

時計台は、札幌を象徴する建物であり、文学や芸術作品にも、しばしば登場する。有島武郎の「星座」、高階哲夫作詞、作曲の「時計台の鐘」などは有名である。ゆかりの詩に、北原白秋の「この道」などがある。

外壁修理・耐震補強工事等

これまでに何度か大規模な改修工事が行われてきたが、平成に入ってからは、平成7(1995)年1月から同10(1998)年9月にかけて時計台保存修理事業として、屋根の葺替、外壁塗装修理、耐震補強工事等が実施され、平成30(2018)年には、劣化した屋根や外壁の塗装等を行う外部改修工事が実施された。



概要

- 木造2階建バルーン・フレーム 構造亜鉛引鉄板葺
- 下見板張りペイント仕上げ
- 建築面積 重要文化財部分 ……384.49㎡
- 東階段室部分 ……29.75㎡
- (市指定有形文化財)
- 計 ……414.24㎡

- **建築年代:** 明治 11 (1878) 年
- **指定年月日:** 昭和 45 (1970) 年6月17日
- **所在地:** 札幌市中央区北1条西2丁目
- **お問い合わせ:** 時計台 ☎ 231-0838
- **観覧形態:** 内部観覧可
- **観覧時間:** 8時45分～17時10分(入館は17時00分まで)
(貸ホール17時30分～21時00分)
- **休館日:** 年始(1月1日～3日)
- **観覧料:** 大人350円(20人以上団体300円)
大学生150円、高校生以下無料
札幌市民は毎月16日無料
身体障害者手帳をお持ちの方など減免規定あり。お問い合わせください。
- **アクセス:** 地下鉄「大通」31番出口より約280m
JRバス・中央バス「時計台前」

